



# 臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

## 教育の現場で

[当法人理事]

朝比奈クリニック

朝比奈 崇介 [医師]

昨日(7/20)NHK総合の【おはよう日本】で「学校の当たり前」を見直す・公立中学の挑戦」というニュースをしていた。AI人工知能が普及する中で今後、どのような人材を育成するのか学校教育の新たなあり方を考える議論が進められている。その中で校則やテストなど学校で当たり前になっていることを次々見直す公立中学校がある。千代田区の麴町中学校である。改革の目的は「自律」。ここでは私服で登校する子も制服を着ている子もいる。服装のルールは生徒が生徒会で見直し実行している。各自も自分で判断し行動する能力が必要とされる。中間、期末の一発テストも廃止され、その代わりに再挑戦が可能なテストを実践している。麴町中学校には全国から多くの視察者が訪れ、新たな学校のモデルになると注目を挙げているという話だ。

これを聞いてパターンリズムモデル(Paternalism model; 父権主義モデル)とシェアードディシジョンモデル(Shared decision model; 協働的意思決定モデル)のことを思い出した。私は以前から糖尿病の患者指導で行動目標を医療者が一方的に決めて、それを患者に行わせるというパターンリズムモデル(父権主義モデル、Paternalism model)に対して常々疑問を感じている。パターンリズムは教える相手にその問題を考え、理解する能力がないと思われるときに行う教育方法である。パターンリズムでは基本的にその行動の真の目的がどこにあるのか、などと考えさせることをさせないので、社会的な規範が自己の中に取り入れられるのが遅くなるし、そうすると主体性は育ちにくい。そんな当たり前のことなのに十年一日のように「何故患者は自分から行動しないのか」などと患者が従わないことに不平を言う。今や中学生の教育でさえ自律性を引き出すために学生と議論して色々な問題を決めていく時代だというのだから、我々だって、特に我々の相手をする患者の大半は大の大人なのだから、もっとシェアードディシジョンモデルを使う必要があるのだ。

パターンリズムのことを考えていたら、講演で地方に行くときに出会う面白い現象を思い出した。聴衆が医師とコメディカルが一緒に講演会というのは非常に講演後の討論が静かなのだ。会場の医師に話を振ると、他の聴衆の皆さんは大人しくそれを聞いている。あまり反対意見は出ない。しかし医師が聴衆の中に居ない会では結構コメディカル達が盛んなディスカッションをする。一般の患者さんもそんな感じがある。糖尿病劇場を地方で患者向けに講演していたときも、患者さんに「あなたの主治医はどんな人？」と聞くと殆どの患者は非難しない。まあそれも儀礼的な反応なのかもしれないが、どの質問をしても私の主治医は素晴らしい人みたいな返事をするものだから、少し変だなあと感じてしまう。地域医療のヒエラルキーの中での医師の立場が極めて強いように感じる。考えてみると半径50kmに一軒しか診療所がないような地域では患者は医師を選べない。きっと目の前にいる医師のいいつけは絶対なのだ。恐らく患者もコメディカルも医師に従わざるを得ないような状況は地域の「過疎性」が作り出しているのかなあと考えた。

読んで  
単位を  
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。

(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部変更しております。)

**問題** 連続グルコース・モニタリング(CGM)について正しいのはどれか、2つ選べ。

(答えは3ページにあります。)

1. 通常7日間連続して測定するシステムである
2. 全ての2型糖尿病患者は、保険適用にならない
3. 腹壁の皮下にセンサーを留置して測定する
4. CGM測定中には、血糖自己測定(SMBG)は不要である
5. 組織間液中のグルコース濃度を連続的に測定できるシステムである



## 報告

## 臨床糖尿病支援ネットワーク 第63回例会

日時:平成30年6月16日(土)  
場所:国分寺市立いずみホール

[当法人業務執行理事] 第63回例会当番幹事 かの内科 菅野 一男 [医師]

2018年6月16日に「差し迫った糖尿病医介連携」というテーマで、第63回例会が開催されました。

基調講演として「看護師からみた糖尿病患者の介護」というテーマで、日本糖尿病教育・看護学会 稲垣美智子理事長にお話いただきました。超高齢社会での糖尿病患者のケアが介護者や介護施設などに委ねられることが増えている点を指摘され、認知症・フレイルが進行し、運動ができなくなることに伴い、偶発症がさらに増加しやすい状況で、生活の場が治療の軸である糖尿病患者に必要な介護場面での支援の在り方を、豊富な経験に基づき具体的にお話しされました。特別講演として東京医科大学植木彬夫名誉教授から「認知症からみた医療と介護」というテーマで、糖尿病に認知症が併発する場合は、認知症の状況と家族、社会資源に応じて治療を継続する必要があり、医療と介護に関わる担当者が互いの状況を理解し、知識や情報を共有する必要があると強調されました。最後のパネルディスカッションでは、医療と介護のそれぞれの現場で活躍されている先生方から、問題提起、現場での対処方など活発な議論がされ、非常に有意義な会となりました。



稲垣先生



植木先生



- 😊 大変参考になりました。今後とも地域との連携を速やかにとれればと思います。
- 😊 稲垣先生のお話がとても分かりやすく、ためになりました。現場にいる薬剤師ではない現在ですが、どのようにして関与、支援していけるか考えさせられました。
- 😊 認知症の教育入院の患者さんが増えています。家族の協力を得られない患者さんも少なくありません。その様な人への対応について、どのような対応ができるか勉強になりました。
- 😊 とても興味を引く内容であったとともに、とても勉強になりました。今は外来勤務で糖尿病の患者さんと関わっておりますが、訪問看護、施設看護にも目を向けて今後勉強していきたいと思いました。
- 😊 高齢の方だと家族の介護力や施設の対応力により治療が制限されることが多いと感じていたので、とても興味深い内容でした。
- 😊 色々な事業所の先生から話を聞くことができ良かったです。どの先生の話も良かったです。このような会を開いていただき、ありがとうございます。
- 😊 H30年改正に合わせすごく良いテーマでした。活かせる講座でした。
- 😊 高齢者、認知症の患者と関わるのが圧倒的に多いため、現実的でとても参考になった。



## 第78回米国糖尿病学会(ADA)

平成30年6月22日(金)～26日(火)

フロリダ州オーランド

[当法人理事]

多摩センタークリニックみらい

藤井 仁美 [医師]

「学会出張」というと患者さんに「またですか?」と言われる。読者の皆さんにも外遊ばかりしている印象を持たれそうで心配だ。睡魔との戦いはあったが、脇目も振らず学会三昧だったと書いておこう。

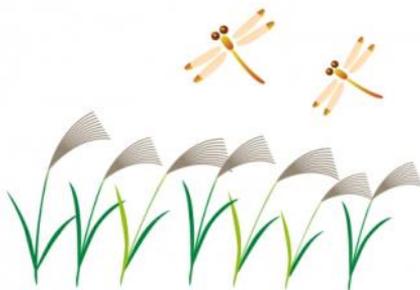
この学会の魅力としては、「バンディングレクチャー」は日本のハーグドーン賞のように、すでに高名な医学者の長年の貢献を賞する最大の名誉らしい。そういう難しい研究の話も会場を満杯にするシロウトに近い聴衆(何千人も入れる吊るしのスクリーンが並ぶ会場にワクワク感も高まる)にもじっくり易しく語ってくれる講演だ。他にも疫学分野や実地医家、教育者を称える賞もありそれぞれ受賞講演がある。いつも数あるシンポジウムを渡って歩くだけで時間いっぱいなかなか一般口演を聞くことができないのだが、シンポのお題からして今年の話題は低血糖、高齢者、腎症などどこも同じようなものか。小児科や1型の話題も豊富なのがこの学会の特徴か。心理・教育の分野もたくさんあるのだが、こういう文化的な話はかえって英語が難しい。

1型の抗体や感受性HLAを持っている人たちの発症をいかに防ぐか、長年にわたり地道に研究している人たちがいて、患者団体なども寄付を寄せている。感受性遺伝子を持っているうえに一般的な炎症状態が常に高い人たちがいて、その多様性についてといった話を聞く。だから予防的薬物療法が有効な群れと無効な群れがいて一緒に解析できないらしい。

花盛りは各社がしのぎを削るCGM(24時間持続グルコース測定)だ。SGLT2阻害薬も日本で上市される3、4年前から盛んに論じられていた。「口から入った分は下から出してしまえ」という概念の野蛮さ(?)に驚いたが、今回は3ヶ月間もつセンサーを皮下に埋め込むといった近未来的(?)アイデアとその受け具合に驚かされる。またデータを受け取るアプリケーションや各種レポートも盛んにプレゼンされている。今や「なぜ平均血糖から推定したHbA1c(eA1c)を見ようとするのか、大切なのはTIR(Time in Range;血糖値が至適ゾーンに入っている割合)」というのもっともだ。

CGMの値から自らインスリン注入量を決定するという技術「輪が閉じた(closed loop)」もアメリカではすでに承認されて1年、さらなる手間や性能の改善が待たれる。現状では食事のボーラス分はマニュアルなので「ハイブリッドクローズド・ループ」というのだそうだ。日本でも、低血糖で自動的にポンプが止まり、自動再開する機能がこのほど追加となった。どんな風に働くのかお手並み拝見だ。

日本でも盛んに使用されるようになった某社のnon-real time CGM(リーダーをかざしたときだけグルコース値を見られるのでも世界で「安くって簡便」という評価を固めようとしている。インスリン使用している万人に装着すればもはや頻回注射法でもポンプ療法と変わらぬコントロールが得られるというのが彼らの主張だ。インスリンを使用していない人にも教育的価値がありそうなのだが、保険がカバーしないからかこれは論じられていない。「ワシントンではメディケイド(自治体によって医療費がカバーされる制度)でも認められたのでいまやスタンダードケアだ」と言っていたが、受けられる医療が加入する保険によって制限されたり、そのための交渉や書類仕事に追われたりというアメリカ医療の側面は日本に見習ってほしくないものだ。



読んで  
単位を  
獲得しよう

答え 3, 5 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

1. CGMには数種類あり7日～14日まで連続して測定出来る。
2. 現在SMBGを行っている患者では補足的に使用することが保険で認められている。
3. ○
4. SMBGは血糖値、CGMは組織液内ブドウ糖値であり時間的ずれなどにより値が異なることがあるのでSMBGは必須で有り保険適応の条件でもある。
5. ○

## 研究会等のセミナー・イベント情報

 主催事業
  共催・後援事業
  その他

 第19回 西東京糖尿病療養指導士養成講座

 申込必要

期 間：平成30年9月5日（水）第1講開講 以降12月18日（火）まで計14回実施  
 場 所：立川市女性総合センターアイム 1階ホール（JR「立川駅」北口徒歩7分）  
 受講料：会員 14,000円 一般(非会員) 20,000円（全14回講義分として）  
 申 込：本法人ホームページ [<https://www.cad-net.jp/>] より（10/5締切）

※詳細は、本法人ホームページより「第19回西東京糖尿病療養指導士養成講座のご案内」をご覧ください。  
 問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

**【聴講制度のご案内】** 聴講制度によりLCDE認定者も受講可能（※但し、未認定者優先）です。養成講座を受講されると40単位を上限とし、1講義出席につき4単位取得できます。8/27（月）より受付を開始します。マイページ内の聴講制度に関する掲示より、Web決済にて受講料をお支払いください。

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：1講義につき4単位

 第22回 南多摩糖尿病教育研究会

 申込必要

開催日：平成30年9月13日（木）19：10～21：10  
 場 所：日本医科大学多摩永山病院 C棟2階 集会室（京王線「京王永山駅」下車 徒歩3分）  
 参加費：500円 申 込：FAX：042-400-5952（9/6締切）  
 問合せ：ノボ ノルディスク ファーマ(株) 担当：一柳 TEL：042-400-5951

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

☆日本医師会生涯教育制度：1.5単位申請中

詳細資料の  
同封あり

 第19回 糖尿病予防講演会

 申込不要

テーマ：『現代食事情』

開催日：平成30年9月29日（土）14：00～17：25  
 場 所：ルミエール府中 コンベンションホール飛鳥（京王線「府中駅」下車 徒歩6分）  
 問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中

参加費  
無料

詳細資料の  
同封あり

 第23回 糖尿病療養担当者のためのセミナー

 申込必要

開催日：平成30年9月30日（日）9：50～18：00  
 場 所：東京経済大学 国分寺キャンパス2号館（JR中央線「国分寺駅」南口下車 徒歩12分）  
 参加費：4,000円 申 込：FAX：03-5574-9970（9/18締切）  
 問合せ：日本イーライリリー(株) 担当：箱守 TEL：03-5574-9100

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：2単位申請中

詳細資料の  
同封あり

 第35回 武蔵野糖尿病研究会

 申込必要

開催日：平成30年10月13日（土）14：50～16：30  
 場 所：国立市商業協同組合 さくらホール（JR中央線「国立駅」南口下車 徒歩3分）  
 参加費：500円 申 込：FAX：042-400-5952（10/5締切）  
 問合せ：ノボ ノルディスク ファーマ(株) 担当：木村 TEL：042-400-5951

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中

詳細資料の  
同封あり

## 発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局  
 〒185-0012  
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802  
 TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478  
<https://www.cad-net.jp/>  
 Email:w\_tokyo\_dm\_net@crest.ocn.ne.jp

## 編集後記



今年の夏は、まず関東地方の異例の速さの梅雨明けに始まり、7月に入ると35度を超える猛暑日が連日続き、皆様もかなり大変なことだと思います。患者さんにとってはもっと厳しい気候で、熱中症になってしまった患者さんも少なくないのではと心配です。この号が出る9月にはおさまっているとよいのですが、さて今月号も見どころ（読みどころ？）満載です。1面の朝比奈先生には貴重な提言を、2面の菅野先生の例会報告、3面の藤井先生のADA報告には出席できなかった方に役に立つ情報を書いていただいております、ぜひ目をお通しください。（広報委員長 西田 賢司）